

(別紙)

令和7年度(令和6年度からの繰越分)障害福祉分野の介護テクノロジー導入支援事業
(介護ロボット等導入支援事業)事業報告書

※導入機器ごとの効果や目的等を把握するため、導入機器ごとにそれぞれ作成をしてください。(一体的に利用している機器を除く)

自治体名 埼玉県

【基本情報】

フリガナ	シャカイワシホウジンギミカイ
法人名	社会福祉法人めぐみ会
フリガナ	カシノキケアセンター
事業所名	かしの木ケアセンター
施設・事業所種別(指定を複数受けている場合は、補助上限額を適用する施設・事業所を選択)	
障害者支援施設	
職員数(常勤換算数)【(従事者の1ヶ月の勤務時間)÷(「事業所等が定めている、常勤の従事者が勤務すべき1週間の時間数 × 4(週)」にて算出(産休・育休、休職は除く))	
39.1 人	

(1)主な導入機器内容(種別・機器名等)

機器の種別: ☐ 移乗介護 ☐ 排泄支援 ☐ 入浴支援
☐ 移動支援 ☐ 見守り・コミュニケーション ☐ 機能訓練支援 ☐ 栄養管理支援

機器名(導入台数) エアバシアシリーズ3モーターベッド ベッド内蔵型離床センター離床CATCHⅢ 5台

(2)ロボット機器等導入前の定量的指標及びロボット機器等導入後の定量的指標

① ロボット機器等導入前の業務時間内訳

業務内容		A.業務従事者数	発生件数		D.1件当たりの 平均処理時間(分)	人時間 E(A×C×D)	1人あたり 業務時間 (C×D÷A)
			B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)			
直接介護	1 移動・移乗・体位変換			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	2 排泄介助・支援			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	3 生活自立支援(※1)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	4 行動上の問題への対応(※2)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	5 その他の直接介護			0 件		0 人時間	#DIV/0!
間接業務	6 巡回・移動	3 人	3,510 件	42,120 件	1 分	2,106 人時間	234 時間
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	8 見守り機器の使用・確認			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	9 その他の間接業務			0 件		0 人時間	#DIV/0!
			3,510 件	42,120 件	1 分	2,106 人時間	#DIV/0!

※1 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握、日常生活の支援

※2 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等

※3 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、文書検索等

以下の※1及び※2については、ロボット機器等導入前の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

＜※1＞B. ひと月当たり発生件数の算出方法

夜間帯の巡回職員数(1人)×利用者数(39人)×巡回回数(3回)×30日間=3510件

＜※2＞D. 1件当たりの平均処理時間の算出方法

夜間、利用者の居室を1人ずつ巡回し、呼吸状態や転落の有無等、安全状態を確認する。

② ロボット機器等導入後の業務時間内訳

業務内容		A.業務従事者数	発生件数		D.1件当たりの 平均処理時間(分)	人時間 E(A×C×D)	1人あたり 業務時間 (C×D÷A)
			B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)			
直接介護	1 移動・移乗・体位変換			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	2 排泄介助・支援			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	3 生活自立支援(※1)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	4 行動上の問題への対応(※2)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	5 その他の直接介護			0 件		0 人時間	#DIV/0!
間接業務	6 巡回・移動	3 人	3,060 件	36,720 件	1 分	1,836 人時間	204 時間
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	8 見守り機器の使用・確認			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	9 その他の間接業務			0 件		0 人時間	#DIV/0!
			3,060 件	36,720 件	1 分	1,836 人時間	#DIV/0!

以下の※3及び※4については、ロボット機器等導入後の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

＜※3＞B. ひと月当たり発生件数の算出方法

夜間帯の巡回職員数(3人)×利用者数(34人)×巡回回数(3回)
利用者数は、ベット5台導入した事により、巡回が必要ではなくなったため、34人に減っている。

＜※4＞D. 1件当たりの平均処理時間の算出方法

夜間、利用者の居室を1人ずつ巡回し、呼吸状態や転落の有無等、安全状態を確認する。

年間業務時間数想定削減率(%)

12.8%

(3)削減率が20%を超える場合は、その要因について記載すること。

離床センサー付きベッドの導入により、定時巡回から状態検知型の見守りへ移行したことで、不要な巡回および訪室が削減された。

(4)ロボット機器等の導入により得られた効果

離床センサー付きベッドの導入により、利用者の離床状況をリアルタイムで把握できる体制が構築され、転倒等の事故リスクの低減につながった。

(5)今後の課題

職員全員の機械操作を標準化するための周知や研修の開催

(6)気づき等について

離床センサーを導入する事で、巡回回数の削減ができた。また、巡回や見守りは回数ではなく、機器を使用し適切なタイミングで支援を行うことで、よりよいケアにつながる事が実感できた。しかし、センサーだけでは把握できないケースもあるため、人的な支援と機器をうまくつかうことが今後の課題として認識した。

(7)費用面での効果(ロボット機器等の導入による費用の削減の有無を必ず選択すること。)

ロボット機器等の導入による費用の削減	無
--------------------	---

ロボット機器等の導入による費用の削減が「有」の場合、以下を回答すること。

削減額(円/月)	
職員の賃上げ等への充当	
その他職場環境の改善への充当(※1)	
サービスの質の向上に係る取組への充当(※2)	

(※1)その他職場環境の改善の具体的な内容について記載すること。

(※2)サービスの質の向上に係る取組の具体的な内容について記載すること。